

平成28年度 学校自己評価システムシート (県立川越総合高等学校)

目指す学校像	農・食・環境・生活を基幹とした総合学科の特性を活かし、感性を磨く中で人間力を高め、総合的な学力の定着と向上を図る。
--------	---

重点目標	1 授業改善に努め、基礎学力の定着と向上を図る。 2 基本的な生活習慣の確立に努めるとともに、博愛と協調の精神を育む。 3 実践的な職業教育を推進し、将来に夢のもてる進路実現を図る。 4 地域と保護者への積極的な情報提供を行い、一体的な教育を推進する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	・生徒の多様な要望に対し、普通教科と専門教科のバランスを重視しながら、基礎的・基本的な知識及び技能の定着など、総合的な学力の向上を図る必要がある。	教育課程及び授業の改善 更なる基礎学力の定着と向上	①教育課程改善のための、小委員会設置と教育課程の具体的な検討 ②授業公開の充実と授業力向上を目指す教科会の充実 ③課題提出、小テストなどによるきめ細かな指導の充実	①教育課程改善のための課題と方策の洗い出しがされたか ②年間3回の授業公開及び各教科会学期10回以上の実施ができたか ③成績優良者の増加、不良者が減少したか	・小委員会を立ち上げ、課題解決に向け具体的な検討が始まった。 ・年3回の授業公開を実現し、教科会でも研究協議等を予定通り実施した。 ・前年度に比べ、成績優良者数は11人増加し、不良者数は18人減少した。	B	・小委員会の検討をもとに、次年度からの実施に向け方向性を決定する。 ・活発な授業公開と教科会の充実を通し、基礎学力の定着に共通理解をもって取り組む。 ・個々の学習状況に柔軟に対応し、能力を伸ばす。
2	・規律ある学校生活及び「埼玉一挨拶のできる学校」づくりを目指し、職員一丸となった指導体制の充実が必要である。	豊かな心の教育と安全教育の推進	①いじめ根絶に向けた組織的な継続指導 ②生徒の実態を把握し、重点項目を適切に設定し、全職員一丸となった指導体制の確立 ③埼玉一挨拶のできる学校づくりの達成状況の検証	①生徒・保護者の満足度が向上したか ②重点項目に対して、分掌を中心とした指導体制を確立し、成果として表れたか ③生徒アンケートや教員の自己評価により、日常的な挨拶の状況が向上したか	・アンケート結果から、生活指導に対する生徒・保護者の満足度にはばらつきがあった。 ・いじめ防止の方針を徹底し、未然防止や早期発見を行った。 ・制服着こなし講座を全学年、ネットトラブル防止講座を1年次に実施した。 ・運動部を中心にあいさつ運動を毎日実施することができた。	A	・引続きいじめ根絶に向け、組織的で計画的な取組を実践する。 ・あいさつ指導を更に徹底し、生徒の主体性や参画意識を更に向上させる必要がある ・生徒の安全を最優先し、安心した学校生活に向け職員一丸となって取り組む。
3	・継続的なキャリア教育を見据え、自己実現に向けた意識啓発と自発的な行動を育むとともに、実践的な職業教育を推進し、将来職業人として必要な意識とスキルを身に付けさせる必要がある。	段階的な進路指導と実践的な専門科目の利点を生かした多様な進路実現への取組の充実	①「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」、LHRの有機的な連携と、進路指導部を中心とした学年進路指導の充実 ②外部指導者や企業等の連携による実践的職業教育の推進	①段階的・系統的な進路指導の確立と、生徒・保護者の満足度及び進路実績の向上が図れたか ②学校外の教育力を活用した実践的な教育活動を年間15日以上実施できたか	・学力テストが計画的に実施され、長期休業中の課題の取組が習慣化されつつある。 ・AOや公募推薦の合格者数及び看護医療分野の合格率が上昇した。 ・就職の自己開拓者が減少し、内定率が上昇した。 ・県事業を活用した企業や海外との連携などの実現。(年間20日実施)	A	・学力テストによる学力の底上げや課題取組の定着化を推し進め、進路実績に繋がる結果を残す。 ・各部署間の連携を強化し、情報の共有とキャリア教育の充実を進める。 ・学校外の教育力をタイミングよく活用し、実践力に磨きをかける。
4	・地域に開かれた学校づくりを目指し、地域及び保護者から信頼され慕われる学校として、積極的な情報発信及び交流活動を推進する必要がある。	信頼と期待に応える、開かれた学校づくりの推進	①ホームページの充実と迅速な更新によるタイムリーな情報発信 ②校種を超えた交流、学校説明会等による学校理解の推進 ③社会貢献活動の推進 ④学校評議員会兼学校評価懇話会の要望把握と実行	①ホームページ閲覧数の対前年度比10%増 ②広報に係る各種取組を充実させ、参加者を前年度と比べ増やすことができたか ③ボランティア活動や地域貢献活動への参加者を前年度と比べ増やすことができたか ④学校評議員等々の要望・意見を学校改革に反映できたか	・HPの閲覧数は前年度と比べ、ほぼ同数を維持していた。 ・目的を明確にした説明会の実施により、参加者が昨年度の3割増しとなった。 ・川越第一中学校と理科教育での連携を実施した。 ・復興支援ボランティアや地域との交流に参加する生徒が微増した。 ・学校評議員会などで得られた貴重な意見を踏まえ、海外研修等の報告会を行った。	A	・学校の特徴や教育活動を、引き続き広く効果的に広報していく。(屋外掲示板の活用、HPの精力的な更新) ・説明会や出前授業・上級学校訪問等の丁寧な対応と、中学生参加者数の維持。 ・地域とのかかわり合いを更に強くし、学校理解に努める。

学校関係者評価
実施日 平成29年2月16日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業期間に授業を拝見し、先生からの一方通行的なものではなく、生徒とよくコミュニケーションを取っていた授業であったので参考になった。引き続き対話的な授業の推進に取り組んでいただきたい。 ・成績優良者の増加や不良者の減少は、課題提出や小テストなどのきめ細かな指導の成果なのではないかと考える。 ・カリフォルニア農業研修に参加した16名の生徒については、その経験や得られた成果を生かし、今後の活躍が大いに期待できる。 ・指導の成果だと思うが、生徒が落ち着いていて、普段の生活態度も素晴らしいと感じる。 ・保護者が学校に関心を持ち、どんなかたちでも学校に足を運ぶことが大切だと感じるが、アンケート結果から実情をどのように分析・判断するのが課題である。 ・海外との連携は素晴らしいと考えるが、参加人数を増やすことはできないのか。もう少し多くの生徒に経験させてみていいのではないかと。 ・中高連携を更に進めるため、部活動等でも連携が築ければいいかと考える。 ・東北復興支援ボランティアをここまで定期的に続けている学校はそうはないと思う。地道に続けていただきたいと考える。 ・落ち葉掃きのボランティアも、平地林の農業(循環型農業)の理解促進に役立っており、今後の農業の振興にもつながっていくと思う。